
古賀市環境審議会（第59回）議事録

- 1 期日 令和7年7月17日（木）午前10時00分から11時30分まで
- 2 場所 古賀市役所 第2庁舎3階 302会議室
- 3 出席委員（11名）

会 長	上杉 昌也	副会長	山本 節子	委 員	中山 裕文
委 員	小山 彰彦	委 員	伊藤 綾	委 員	渋谷 安広
委 員	佐伯 知康	委 員	新 博司	委 員	須賀 信明
委 員	大賀 祥治	委 員	上妻 秀典		
- 4 欠席委員（2名）

委 員	福原 達人	委 員	菊次 憲二
-----	-------	-----	-------
- 5 傍聴者数 なし
- 6 事務局

副市長（野村）	市民部長（簗原）	環境課長（石倉）
環境整備係長（有田）	環境課係員1名	
- 7 議事
(1) 生物多様性古賀戦略中間見直しについて
- 8 配布資料
(事前配布) ・当日次第
 ・委員紹介【資料1】
 ・生物多様性古賀戦略中間見直しについて【資料2】【資料3】
(当日配布) ・配席表

概 要

1. 開会

- ・事務局が委員の出席状況を確認し、古賀市環境審議会（第 59 回）として成立することを宣言。
- ・副市長より開会挨拶。
- ・副市長より委員の代表者として上杉委員に委嘱書を交付。
- ・委員より自己紹介（【資料 1】）。
- ・会長として上杉委員、副会長として山本委員を選任。

2. 議事

（1）生物多様性古賀戦略中間見直しについて【資料 2】【資料 3】

- ・配布資料に基づき事務局より説明。
 - ・質疑・応答。
- 上杉 会長： 事務局より生物多様性古賀戦略の中間見直しについて説明があった。案について、他の委員の皆様のご意見を伺いたい。
- 須賀 委員： 計画期間が 2033 年までである一方、ネイチャーポジティブの目標年が 2030 年となっており、3 年のずれがある。整合性をどのように考えているか。
- 事 務 局： 国の動向を見極めつつ、2030 年以降の対応については国家戦略に沿った取組を進めていく。
- 須賀 委員： カーボンニュートラルに関しても同様に、年数にずれがある点が気になる。
- 事 務 局： 国の方針との整合性を保ちながら進める。
- 上杉 会長： SDGs についてはあえて触れない方針か。
- 事 務 局： 環境基本計画に連動して記載変更していく。
- 中山 委員： ごみ回収量などの環境データを指標化し、「見える化」できるようにするとよい。
- 事 務 局： 毎年環境報告書で環境に関するデータを公表している。今後もわかりやすい形での情報発信に努める。
- 上妻 委員： 市民へのアピールが不足している。SNS なども活用してはどうか。また、市長との連携強化も検討を。
- 事 務 局： 工夫しながらわかりやすい発信を心がける。発信方法を検討する。

- 大賀委員：生態系の中で分解者という働きを持つキノコ類の重要性にも注目していただきたい。古賀グリーンパークで観察会も実施している。
- 山本委員：生き物調査においてキノコの視点が不足していた。今後協力していきたい。
- 事務局：コラムとして分解者（菌類）を取り上げるなど、反映していく。
- 小山委員：この5年間での取組成果を、具体的にアウトプットしていただきたい。
- 事務局：次回の審議会で成果について報告する予定。
- 渋谷委員：森林の再生や、竹の活用（メンマや竹炭）が進んでいる。農地では遊休農地の解消にも取り組んでいる。猪・鹿対策も含め成果として反映してほしい。
- 新委員：生物多様性という言葉がまだ広く知られていない。グリーンインフラや防災的な視点（治水・利水）も戦略に含めていただきたい。
- 上妻委員：農薬が生態系に与える影響も考慮すべき。
- 渋谷委員：現在の農薬は改良され、人体・作物への影響が少ないものも多い。新しい害虫への対応も必要。ジャンボタニシやカメムシの増加に苦慮している。
- 事務局：農薬の生態系への影響については記載内容を検討していきたい。
- 上妻委員：昔と比べて農地に生き物が減っていると感じる。学識者の意見も伺いたい。
- 小山委員：確かに、生きものの種類や量が減っている。郊外の都市化や温暖化など様々な影響が考えられる。
- 上妻委員：子どもたちには自然と触れあってほしい。自然を取り入れた開発を検討いただきたい。
- 事務局：生態系に配慮した工法の紹介など、記載を検討していく。
- 上杉会長：現行計画ではマイクロプラスチックの影響などが記載されている。今後、農薬や外来種といった新たな視点も検討してほしい。
- 伊藤委員：子どもたちへの周知に力を入れてほしい。青柳小学校で「古賀の宝」という単元学習で出前授業を行ったことがある。そのような学校での授業で、もっと本計画を活用してもらえるようにしてほしい。

- 事務局：教育現場への戦略の PR が不足していた。今後、校長会等での情報共有を進める。
- 須賀委員：事業者との連携が弱いと感じる。脱炭素経営と生物多様性保全につながるなど事業者へ向けた記載を追加してほしい。
- 事務局：本年度、脱炭素プラットフォームを立ち上げ、事業者と連携できる場が生まれた。今後は生物多様性に関連する取組も伝えていきたい。
- 佐伯委員：事業者や個人に向けた具体的な取組内容をわかりやすく PR してほしい。
- 中山委員：環境施策に取り組む企業が入札などで優遇される仕組みを設けてはどうか。インセンティブを設けるなどの工夫が必要。
- 事務局：入札に関しては優遇措置の有無など担当部署である管財課に確認する。事業者や個人に向けた具体的な取組内容については記載について検討したい。
- 山本委員：小学校での虫を通じた環境教育に長年携わってきた。当初 3 校で行っていたが、現在は小野小学校のみで続けている。環境教育を幼稚園・こども園の段階から取組んでいきたい。
- 事務局：小学生以下の年代に対する環境教育について、環境アドバイザー制度の周知に力を入れるなど方法を検討していく。
- 上杉会長：今回の審議会において、委員の皆様からさまざまなご意見をいただいた。事務局においては、ご意見を踏まえた上での取りまとめを行っていただきたい。

3. その他・閉会

<事務局からの連絡事項>

- ・今回の審議会の報酬・費用弁償の支払いについては、8月中の振込を予定している。
- ・今回の審議会の会議録を作成次第、委員に送付する。訂正等があれば環境課に連絡いただきたい。最終的には会長に承認いただき、会議録の決定とする。会議録は市のホームページにて公開する。
- ・環境課長より閉会挨拶。